

地球環境

ESG基本方針
〈地球環境〉

地球環境保全を人類共通の重要な課題と認識し、事業活動において環境負荷低減に取組み、持続可能な社会への貢献を目指します。

- 環境負荷低減目標と実績

●気候変動問題への対応

●産業廃棄物の削減・省資源/リサイクルの推進

●温室効果ガス排出量削減・省エネルギーの推進
- ▶ P.33

▶ P.34

▶ P.35

▶ P.36
- 関連するSDGs
- 3

7

9

11

12

13

環境行動
指針

- 1 安心・安全な環境配慮設計、顧客サービスに積極的に取り組みます。
- 2 省エネ・省資源・リサイクルに継続的に取り組みます。
- 3 環境に関する法令を遵守し、企業の社会的責任を遂行します。
- 4 環境目標を設定し、環境マネジメントシステムの活用と目標達成に努めます。
- 5 環境方針と環境行動指針および取り組み実績を定期的に公開します。



環境負荷低減目標と実績

前中期経営計画「SHINKA Plus ONE」(2021-2024年度)では、環境負荷低減目標を掲げ、さまざまな取り組みを実行し、最終年度となる2024年度はリサイクル率、産業廃棄物排出量削減目標を達成しました。

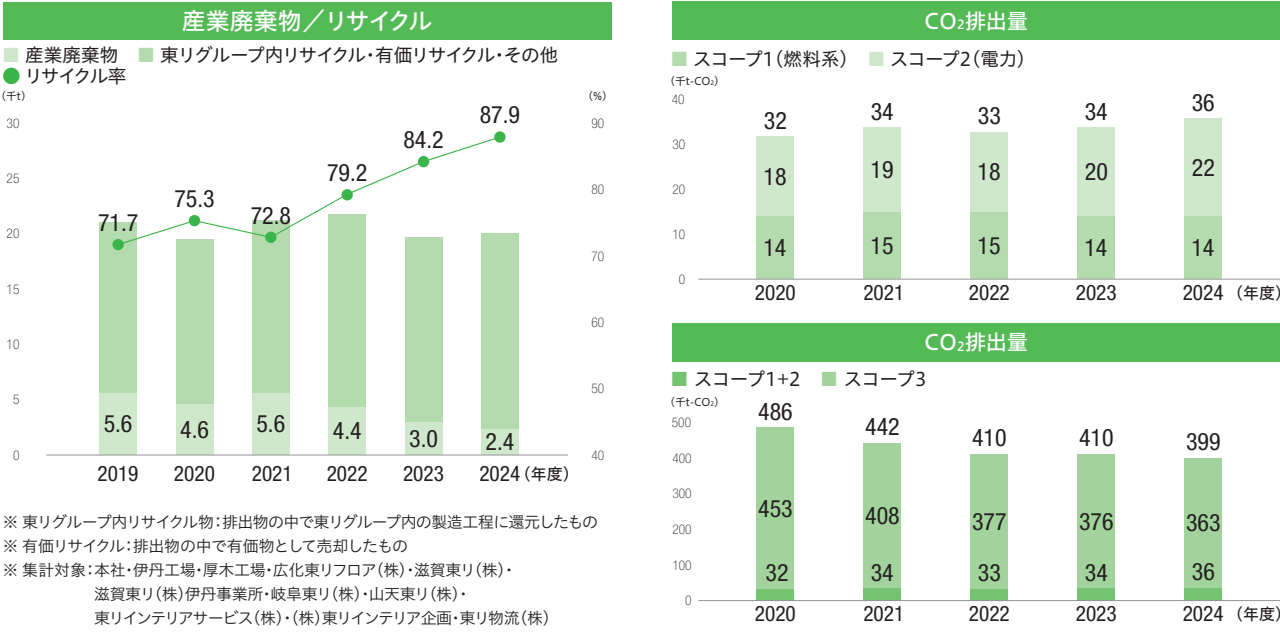
2025年度よりスタートした中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」(2025-2027年度)では、前中期経営計画を上回る環境負荷低減目標を新たに策定しました。

環境負荷の低減は、長期ビジョンと中期経営計画にて中長期の目標を掲げ、ESGの観点からも取り組むべき重要なテーマと位置付けています。新たな目標に向かい、さらに地球環境保全と持続的な社会の実現に貢献してまいります。

	「SHINKA Plus ONE」		「SHINKA Plus ONE 2.0」		〈TOLI VISION 2030〉
	目標 2021-2024年度	実績 2024年度	目標 2025-2027年度	目標 2030年度	
リサイクル率※	85%以上	達成 87.9%	88.5%以上	90%以上	
産業廃棄物排出量 (2019年度比)	40%以上削減	達成 57.9%削減	58%以上削減	60%以上削減	
CO ₂ 排出量(スコープ1+2) (2020年度比)	—	12.1%増加	—	30%以上削減	

※ リサイクル率:総排出量における東リグループ内リサイクル物+有価リサイクル物の割合

実績推移



気候変動問題への対応

TCFD提言に基づく情報開示

当社グループは、2022年にTCFD提言への賛同および情報開示を行いました。当社グループの事業活動において、気候変動にどのようなリスクと機会があるかを特定し、その影響を分析した上で、気候変動への対策をより一層強化してまいります。TCFD関連情報は、当社ホームページに開示しています。

TCFD提言に基づく情報開示はこちら▶



リスクと機会

当社グループは、想定される要因毎にリスクと機会を洗い出し、その影響の大きさを考え、項目を特定しています。特定したリスクと機会に対して中長期的な対応策を継続的に実施し、事業活動のレジリエンスを高めています。

リスクの発生要因				内容		財務影響	
リスク	移行リスク	政策規制	カーボンプライシングの進行	カーボンプライシングの導入、上昇によりエネルギーコスト・原材料コストが増加する。	大		
			カーボンプライシングの導入にともない、民間需要が停滞し、売上が減少する。	小			
		技術	既存商品/サービスの環境配慮型オプションへの置換	排出係数の高い原材料から低い原材料への転換にともない、設備投資・開発・調達コストが増加する。	大		
			環境配慮型技術への移行にともなう先行コスト	循環型事業へシフトすることにより設備投資・開発コストが増加する。	大		
		市場	原材料価格上昇	省エネルギー・長寿命・簡易施工・軽量商品の開発・設計コストが増加する。	小		
	原材料価格が上昇し、内製化施策を取った場合、設備投資・開発コストが増加する。			大			
	物理的リスク	急性	台風や洪水などの異常気象の重大性と頻度の上昇	被災によりサプライチェーンが寸断し、事業活動の停止や縮小が起こることにより売上が減少する。また対策によりコストが増加する。	小		

機会の発生要因		内容		財務影響	
機会	資源の効率	サーキュラーエコノミー型事業の確立	市中廃材や自社工場で発生する端材等をリサイクル原材料にするリサイクル事業の確立により、原材料コストが減少する。また、CO ₂ 排出量削減への貢献にともない企業評価が向上し、売上が増加する。	大	
	エネルギー源	高効率設備の導入等によるエネルギーコストの抑制	CO ₂ 排出量削減に貢献する高効率設備の導入や商品の軽量化、輸配送の効率化により、サプライチェーン毎のエネルギーコストが減少し、利益が増加する。	小	
	製品およびサービス	R&Dとイノベーションを通じた新商品・サービス開発	リサイクル比率の拡大やCO ₂ 排出量の削減、製造コスト縮減に対応するための技術を確立し、それら技術を活用した環境配慮型商品・サービスの展開により、売上が増加する。	大	
			低CO ₂ 排出素材等、さまざまな原材料への対応や効率的に加工する技術を高め、原材料調達の選択肢が増えることにより、事業継続力が高まるとともに製造コストが減少する。	小	
	市場	公共セクターのインセンティブの利用	CO ₂ 排出量削減に貢献する新商品やサービスを提供することにより、売上が増加する。	中	
市場		リニューアル、建替需要が発生し、売上が増加する。	小		

6つの取り組み戦略		
グループ計画の着実な実行による温室効果ガスの削減	①【減らす】 ・節減、高効率設備の導入、工程見直し ・輸配送エネルギーの削減 ②【創る】 ・太陽光発電設備の導入 ③【置き換える】 ・低排出エネルギー、再エネ電力等への切替 ・排出係数の低い原材料への切替	川上工程の内製化 ①川上原材料の内製化技術の確立 ②原材料製造設備の新規導入 ③さまざまな原材料への対応技術の拡大 ④中間処理、リサイクルのための新規設備投資と安定稼働
環境配慮型商品・サービスの拡大、利益率の改善	①リサイクル原材料使用商品の拡大 ②長寿命・省メンテナンス商品の拡大 ③簡易施工商品の拡大 ④商品の軽量化の推進 ⑤新たな環境配慮型商品・サービスの展開 ⑥リサイクル原材料の使いこなし技術の向上	サプライチェーンBCPの強化 ①サプライチェーンまで含む事業継続計画(BCP)の強化
リサイクル原材料の確保と利用	①リサイクル原材料の安定調達ルートの構築 ②リサイクル原材料の活用技術の向上 ③タイルカーペット事業ゼロエミッション化 ④広域認定制度等の活用による市中廃材の回収 ⑤事業横断型の原材料活用推進	輸配送の改善 ①【減らす】〈スコープ3〉 輸配送エネルギー・コストの削減 ・商品の軽量化 ・輸配送の効率化 ・保管、荷役の効率化 ・委託先への輸配送エネルギー効率の改善要請

CDP2024 気候変動質問書において「B」スコアを獲得

当社グループは国際的な環境分野の非政府組織CDPの質問書に2023年に引き続き2024年も回答し、気候変動に関するガバナンスや事業戦略、温室効果ガス排出量算定などの取り組みが評価され、「B」スコアを獲得しました。「B」スコアは上位から3番目のマネジメントレベルとされ、「自社の環境リスクやその行動影響を認識し、行動していること」を示すもので、当社グループの長年にわたる気候変動への取り組みが評価に繋がりました。



産業廃棄物の削減・省資源/リサイクルの推進

サーキュラーエコノミー型事業の確立

当社グループでは、サーキュラーエコノミー型社会の実現にむけた事業活動を戦略のひとつとして掲げております。グループ製造工場で発生する端材等の再利用だけでなく、世の中で廃棄されていた廃材のリサイクルや販売した商品の水平リサイクルの取り組みを通じて、社会全体における循環型社会の実現に貢献しています。今後も取り組み内容と実績を定期的に報告することで、さらに持続性を高めてまいります。



「TOLI完全循環型リサイクルシステム」の推進(タイルカーペットの循環リサイクル)

使用済みタイルカーペットの回収(広域認定制度活用)

当社は、2012年にタイルカーペットにおける「広域認定制度」の認定を受け、カーペットメーカーとして国内で唯一、自社製の使用済みタイルカーペットを自ら回収しリサイクルしています。



※「広域認定制度」とは、製造事業者等が、廃棄物となった自社の製品を広域的に回収し、リサイクル処理をすることを目的として取り扱うための特例制度のことです。
(環境省 認定番号第215号)

タイルカーペットの再資源化(高度なマテリアルリサイクル)

2021年にタイルカーペット廃材等をパイル層(表面繊維層)とバック層(塩ビ樹脂層)に分離することなく再生利用する独自技術を確認しました。



2024年4月から滋賀東リ株式会社にて「タイルカーペットリサイクル2号プラント」が本格稼働し、リサイクル量の拡大(処理能力は1号機・2号機合わせて最大約3.5倍に増強)による産業廃棄物の大幅削減を実現しています。さらに2025年10月にはリサイクル中間処理施設を拡充し、効率化とともに回収エリアの拡大を推進してまいります。

タイルカーペット
TOLI完全循環型
リサイクルシステム

環境タイルカーペットの製造(リサイクルバック)

タイルカーペット製造時に発生する工場内端材等に加えて、市中から回収した自社製使用済みタイルカーペットを当社グループ工場にてリサイクルチップに変換する再資源化を行い、環境対応タイルカーペットのバック層の一部として再利用する循環型水平リサイクルを推進しています(サスティバック)。2022年にサスティバックを採用した「GA-3600 サスティバック」が誕生し、さまざまなお客様から高い評価をいただいています。

※「サスティバック」は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2025年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



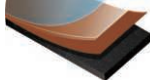
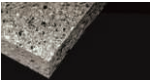
TOPICS 大阪・関西万博でのリサイクル活動推進

大阪・夢洲で開催され大好評のうちに幕を閉じた「2025年日本国際博覧会(略称、大阪・関西万博)」に会場整備参加サプライヤーとして参画いたしました。博覧会会場管理棟にタイルカーペットを提供し、「TOLI完全循環型リサイクルシステム」によって使用済みタイルカーペットを回収してリサイクルする予定です。この取り組みにより、閉会後も産業廃棄物排出量、およびCO₂排出量の削減に貢献いたします。引き続き、モノづくり企業の責任として、サステナブルな社会の実現にむけた環境負荷低減活動を推進してまいります。



環境配慮型商品の充実

当社グループは、環境負荷低減活動のひとつとして、環境配慮型商品の拡充にむけた6つの取り組みを推進しております。当社グループが誇る技術開発力を最大限に発揮し、商品価値の向上と循環型社会の実現に貢献してまいります。

6つの取り組み			
	リサイクル材の使用		省メンテナンス
リサイクル材の使用		省メンテナンス	
リサイクル材の使用		省メンテナンス	
リサイクル材の使用		省メンテナンス	
リサイクル材の使用		省メンテナンス	
	商品の長寿命化(美観維持)		簡易施工
商品の長寿命化(美観維持)		簡易施工	
商品の長寿命化(美観維持)		簡易施工	
商品の長寿命化(美観維持)		簡易施工	
商品の長寿命化(美観維持)		簡易施工	
商品の長寿命化(美観維持)		簡易施工	
	商品の長寿命化(高耐久)		商品の軽量化
商品の長寿命化(高耐久)		商品の軽量化	
商品の長寿命化(高耐久)		商品の軽量化	
商品の長寿命化(高耐久)		商品の軽量化	
商品の長寿命化(高耐久)		商品の軽量化	
商品の長寿命化(高耐久)		商品の軽量化	

エコマーク認定商品の拡大

当社グループは、リサイクル材の使用を推進し、ビニル床タイルの主力シリーズであるロイヤルストーン、ロイヤルウッド、イークリンNW-EX、イークリンマスターNW-EX、LAYフローリング ピタフィーの全アイテムでエコマーク認定を取得しました。環境配慮型商品として、これまで通り安心してご使用いただける上、この取り組みにより、CO₂排出量削減効果もさらに向上しております。

温室効果ガス排出量削減・省エネルギーの推進

2050年までにカーボンニュートラルを目指す動きが世界各国で本格化しており、当社グループも2030年度までのCO₂排出削減目標を重要な経営指標として掲げています。これまで取り組んできた省エネ活動などの地道な努力と合わせ、工場設備などの高効率化設備投資の検討も含め、目標の達成を目指してまいります。また、今後は長期目標についても検討し、ゼロエミッション企業へのチャレンジも進めてまいります。

創る 太陽光発電設備の拡充

新たに3事業所に太陽光発電設備を導入

当社グループは、CO₂排出量削減の一環として、伊丹事業所にて2024年1月に太陽光発電設備を導入しました。さらに、2024年度には厚木事業所、滋賀事業所、岐阜事業所にも設備を導入しました。これら4事業所を合わせると、年間で約3,000MWhの発電量が見込まれ、これは、年間1,100t-CO₂排出量削減に相当します。



グループ計画

- ①減らす 節減、高効率設備の導入、工程見直し、輸配送エネルギーの削減
- ②創る 太陽光発電設備の拡充
- ③置き換える ... 低排出エネルギー、再エネ電力等への切り替え
排出係数の低い原材料への切り替え

減らす CO₂排出量削減活動の推進

事業所の取り組み

2024年度、当社グループ生産拠点において優秀な実績を残した滋賀東リ株式会社の取り組みは下記の通りです。

- プリント工程における製造品種ごとの加熱条件の見直し
- ボイラーの夜間停止
- エア漏れ画像装置の活用によるエア漏れ箇所の特定と修理
- 冬季加温用装置に代わる自動温調加温機への更新
- 厚生棟浴場での保温シート活用と設定温度の見直し

これらは、「ジブンゴトのカーボンニュートラル」として、大きな費用をかけることなく、職場の自主的な取り組みとして推進し、結果、年間目標18tを大幅に上回る42tのCO₂排出量削減を達成しました。これらは、大きなコスト削減にも繋がりました。